

東京大学大学院・臨床心理学コースの下山研究室では、公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 (<http://www.mental-health.org>) の助成金を得て「認知行動療法と森田療法の交流フォーラム」を以下の予定を開催します。森田療法、認知行動療法、メンタルヘルスにご関心のある方の御参加を期待しております。

若者の強迫性障害の事例検討会

—森田療法と認知行動療法の交流を通して—

日時場所

日時：2013年10月16日（水曜日）18：00pm～20：00pm

会場：

東京大学教育学部156番教室（赤門入って左側建物「教育学部」の玄関の正面）

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cg>

主催：

東京大学大学院・教育学研究科・臨床心理学コース下山研究室

目的：

現在注目を集めている認知行動療法と森田療法の接点に関して、臨床事例検討を通して相互の交流発展の可能性を探る

参加費：

1000円（資料代 当日受付でいただきます）

参加条件：

医師、臨床心理士、看護師、PSW等のメンタルヘルス専門職

プログラム内容

司会：

下山晴彦（東京大学大学院 臨床心理学コース）

発表事例：

子どもと若者の強迫性障害に対する認知行動療法プログラムの1事例
『思考への捉われが見られた思春期女兒の強迫症状への介入』

主訴：考えたくないのに考えてしまう。考えたことを口にすると、違ったと思ってしまう。

http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/?page_id=220

発表者：下山研究室の大学院生の事例担当者

事例コメント

久保田幹子先生（法政大学大学院 人間社会研究科 教授／ 森田療法学会事務局長）
林潤一郎先生（成蹊大学経済学部（心理学担当）専任講師 兼 同大学学生相談室専任カウンセラー／ 原田メンタルクリニック）

指定討論：

森田療法の立場から

中村敬（東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科教授／ 森田療法学会理事長

認知行動療法の立場から

原田誠一（原田メンタルクリニック 東京認知行動療法研究所 院長／東京大学大学院教育学研究科 客員教授）